

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371301090		
法人名	株式会社ライフケアみおつくし		
事業所名	グループホーム安楽樹 A棟		
所在地	名古屋市守山区笹ヶ根一丁目101番地		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成28年4月4日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成28年1月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

社内理念の「やすらぎ」をモットーに、利用者様にごく普通の生活をご普通に過ごして頂ける事を心がけている。名古屋市内の比較的便利な住宅街にありながら、緑豊かな自然に囲まれ、敷地内にいながらにして、春は桜、菖蒲、秋は紅葉、柿やミカンの収穫と季節の変化を楽しむことが出来る。また敷地内にある畑で野菜や花を育て、育てた野菜で料理をし、育てた花で部屋を飾り、自然の豊かさを直接肌で感じながら、ごく普通の生活をご普通に過ごして頂く。また系列の施設との合同イベントなどで利用者様同士の交流が盛んに行われている。恒例行事となった温泉旅行や運動会では利用者様全員参加をモットーとし、通常の介護の非常識を常識とする事で、利用者様もスタッフも喜びや自信につなげている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者が、野菜を作ったり花を育てたり買物をしたり料理をしたりする普通に過ごすことを心がける一方で、言葉の出なかった人の言葉を引き出したり、おむつを外して過ごせるよう根気強く取り組み、外せるよう努め利用者の笑顔を増やしている。また、職員の目的意識を持ってもらうよう社内研修に取り組み、職員の意欲と能力を向上させている。そこから、法人全体での利用者全員の温泉一泊旅行は利用者の楽しみになり、バリアフリーではない施設に出かけるため職員にとっても努力と意欲の向上に繋がっている。職員からは、利用者が普通に生活してもらうための意見やイベントの提案なども積極的にされており、職員の笑顔も優しさで自信に繋がっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員に浸透するよう、リビングと玄関の誰が見やすい場所に掲示し、毎月のカンファレンスごとに唱和・確認を行い、理念に即した介護に努めている。	理念はカンファレンスでの唱和や日々の活動の中でも確認し、共有して意識付けされている。職員の中には、外部研修で改めて理念の内容を考えることができたとの声もあった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、盆踊り等地域の方との交流を行っている。また近所の保育園とも交流をしており、顔なじみの関係になっている。	保育園や中学校との交流や、地域への場所の提供からボランティアとしての参加につながり、利用者の楽しみとなっている。区の福祉祭りへの参加協力を得るなど地域との交流が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの専門性を活かし、いつでも相談に応じられる体制を作っている。民生委員の方が集まって施設の見学にも来て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所からの報告だけでなく、委員の方からの意見、要望等を聞きサービス向上に生かしている。	運営推進会議は年6回行われ、家族や民生委員、いきいき支援センター職員などが参加して行われている。利用者の状況や行事案内や報告をし、地域の行事の情報ももらっている。会議の中で出された意見や要望を聞き、ホームの取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や区役所との連携で、指導やアドバイスを受けるなどお世話になっている。また守山区社会福祉協議会主催の福祉祭りには毎年参加をしている。	市役所や区役所へは、介護保険更新等の手続き以外にも相談等積極的に向きアドバイスをもらい事業所の状況を伝えている。職員はいきいき支援センター主催の認知症の勉強会の講師としての依頼も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人に拘束本来の意味と目的を考える機会をカンファレンスや当社独自の研修で取り上げ、各職員に当社理念に基づいた介護には拘束は不必要であると理解してもらっている。	利用者への見守りと声掛けがさりげなくされており、ケアの中で気づいた時にはその都度職員に身体拘束について指導している。カンファレンスや職員研修で身体拘束を取り上げ理解を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の幹部会議、主任会議、カンファレンス等で議題にあげ、確認し合っている。また入浴時に身体の確認をしている。また言葉や無視による虐待が無いよう特に注意を払い、目に見えない行為の防止にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人や身元引受人の方の協力を頂きながら、カンファレンスや社内独自の研修時に学ぶ機会を設け、守秘義務に留意し理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人の生活状況やご家族の不安・疑問点をお聞きしたうえで、理解して頂けるように説明する事を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所便りを年4回ご家族へ送り、近況をお知らせしたり、ご家族が来訪されて際に近況をお伝えし、ご家族の意向を聴き運営に反映するように努めている。	行事や近況の様子が載った事業所便りは年4回家族に送付されている。家族の来訪時や電話で近況を伝え、意見や要望を聞き支援に活かしている。一泊旅行では家族の参加できない利用者への配慮からボランティアの協力を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の幹部会議、主任会議、カンファレンス等を通じて職員の意見等を聞き、可能な事は取り入れ、介護を行いやすい環境作りに努め、反映させるようにしている。そのためにホーム長室を大きく設け、職員にとって開かれた環境を心がけている。	職員が意見を言いやすい環境にするため、ホーム長は職員への声掛けを工夫している。職員に目標を持ってもらい、研修に参加してもらうことで意見や提案を出せる職員を育てており、意欲の向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内ライセンス制度を設け職員のやりがいにつながるように研修を行っている。ライセンス合格者も徐々に増え、合格者が未受験者に対し研修を行うようになってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の勤務実績や能力等を考慮して、各研修に参加が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県や守山区の各連絡協議会等に参加しており、情報収集や研修会等に参加し、サービスの質の向上が図れるように努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や入所時にご本人と話す機会を少しでも多く設け、要望や意見を良く聞き安心して信頼関係を築いて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも話す機会をなるべく多く持ち、要望や意見が出やすいような雰囲気を作り、良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向を聞いたり、ご本人の状況を出来るだけ詳しく把握し、適切なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護を行うだけの関係でなく、自分も共同生活の一員としての立場に立ち利用者様に寄り添った介護を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日常的に家族と連絡を密にして、利用者様により良いサービスを提供できるように努めている。又、クリスマス会等のイベントにご家族も参加して頂けるよう呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際に利用者様のなじみの場所を通して当時の話をしたりして楽しんで頂いている。また、知人に訪問して頂いたり、電話や手紙で関係が途切れないように支援している。	自宅の近所の方が訪ねて来たり、電話や手紙でのやり取りを支援している。利用者のお話の中に出た場所へ行ったり、ドライブで馴染みの場所を通るなど積極的に継続支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	極力ホールで過ごせるよう、声掛けや企画をし孤立しないような働きかけをしたり、職員が間に入り利用者様同士が会話を通じて良い関係が傷くように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても入所先が決まるまで相談に応じたり心当たりのある施設の紹介援助を行いつつでも相談に応じる旨を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で個々の希望意向を把握しコミュニケーションが困難な利用者さまに於いては家族からの聞き取りアセスメントを活用し把握に努めている。	利用者との関わりの中で、落ち着いて話を聞いたり、意思表示が困難な人には表情や発する声の様子から真意を推し図り、思いや意向の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族とのコミュニケーションの中で、これまでの生活歴等をなるべく詳しく聴きとりをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス等で各利用者さんの現状について話しあったり、申し送りノートを活用したりとスタッフ内での連絡・報告を徹底し、利用者の現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に使う様式を主任会議等で作成し、よりスタッフの意見が多く取り入れられるようにしている。カンファレンスでサービス計画の見直し、作成を行い、又、御本人の思いを中心に家族の意見等聞き、本人の現状にあった計画作成に努めている。	6か月毎に見直しする他、身体の変化に応じ、主治医や看護師と連携を取りながら見直しを行ない、現状に合った介護計画を作成している。要望や意向の変化には、職員間で慎重に協議し、検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭や申し送りノート、介護記録等にて情報を共有して常に状態を把握できるようにし、介護計画の改善目標に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態変化や現状に添った介護が出来るように職員間で共有し、特定のサービスにとらわれないように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のお祭りや盆踊り、近所の保育園との交流、民生委員や地域の方々との交流等に利用者様にも参加をして頂き、少しでも楽しく暮らして頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでは入所時に主治医を当ホーム契約の医師に代わって頂くようお願いしています。現在隔週一度の往診をしていただき、利用者様の状態変化にすぐに対応して頂ける。又、専門医の定期的な受診等の援助も行っている。	二週間毎の主治医の往診や週一回の訪問看護、また緊急時には24時間相談できる体制を整え、医療面での安心に繋げている。協力医以外に通院する際は、家族や医療機関との情報交換の連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週1回の訪問看護、緊急時のサポート、看護指導等を受け、利用者様が適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	複数の協力医療機関を持ち、安心して受け入れていただけるよう契約を取り交わしている。また入院時にこまめに足を運ぶことにより、病院関係者から情報もいただき、施設での生活ができる状態になったら早期に退院して認知症の進行を最小限にする努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の為に入所時に家族・後見人の意見をいただいている。又、ホームで出来る事・出来ない事を十分に説明し理解していただいている。状態に変化が見られた時は、その都度家族に連絡し、医療機関との連携の下、援助に取り組んでいる。	重度化の際には家族や主治医と話し合い、利用者にとって安楽な生活が継続出来る様に方針を決めている。職員は利用者寄り添い、他利用者と共に過ごす時間を大切に、最良な支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変又は災害時を想定し救急救命訓練や応急手当事故発生への対応訓練等を消防機関へ依頼することを定期的に計画し実践力を身に付けれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災地震に備える為に自主防火防災計画書を作成し町内会組織にも組み込んでいたように申し入れを行っている。又、職員全員を対象に施設独自で炊き出し・防火防災訓練等もやっている。	夜間想定避難訓練は、実際に暗くなる時間に行った事で誘導等の困難さが体験でき、今後の課題が具体化された。カンファレンス時に議題に挙げたりシミュレーションを行い、職員への防災意識を高めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや声掛けの仕方が人格を尊重するうえで重要で有る事をカンファレンス等機会の有るごとに伝えている。職員もその事を大切に接するように心がけている。ご本人の想いや立場を十分に理解し、日々の生活に活かしている。	長年の付き合いの中で言葉使いが馴れ合いにならない様、その都度の指導やカンファレンスで話し合い意識付けしている。個人を尊重し、それぞれに心地の良い言葉掛けや接し方に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の想い・希望を出していただける雰囲気作りに努め、声掛けする中でもアンテナを広げ自己決定支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様がどのように生活したいかを介護の中心に置き、介護者側の都合を優先させないようにして利用者様のペースで生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の要望に沿った身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様お一人お一人が出来事を把握し、食事の準備、配膳、後片付け等を分担して行って頂いている。	献立は利用者の嗜好や希望をその都度取り入れ、ユニット毎に違う食事を提供している。庭先でBBQや豚汁焼き芋大会等のイベントを行ったり、外食の機会を多く作ったりして、利用者の楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分摂取量に気を付けた支援を一日の流れの中で習慣として組み込み、その都度気配りして一人ひとりへの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各々の状態・自立度に合わせたケアをしていただく又は援助している。状態に応じて契約訪問歯科医療機関に出張診療、口腔ケア指導をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターン把握に努め、時間や様子を見てトイレ誘導をし、出来るだけ自立した排泄が出来るように支援している。	利用者が心地よく排泄できるかを考え、失敗時には不快感を与えない様子さり気なく素早い対応を心掛けている。日頃の排泄状況を把握し、布パンツへの使用に向けての自立支援をチームとして取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や、ラジオ体操や散歩等出来るだけ体を動かしていただけるよう働きかけ下剤に頼らない便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックや浴室内外の温度差や水分補給に注意を払い、ご本人が安心して入浴して頂けるように支援している。またなるべく希望に沿った入浴時間帯に入浴して頂けるよう、各職員も努めている。	毎日好きな時間に入浴可能とし、介助の必要な人は職員が付き添い、希望の入浴を支援している。入浴中は浴室扉の外側から見守り、プライバシーにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は散歩や日光浴等外気に触れて頂くように支援している。併せて多くの楽しみごとを増やし、安眠して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方されている薬の目的・副作用を充分理解し、確実な服薬を援助し症状の変化に注意し健康維持に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の自立度に合わせた役割を持っていただき、又、各々の趣味や楽しみを把握し張り合いのある日常生活が送れるよう援助している。また年1回の全施設合同での温泉一泊旅行も行っており、利用者様の楽しみにつながるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材や日用品の買い物には同行して頂いている。法人他施設との交流も頻繁でドライブや外食等も合同で行っている。また地域行事へも参加して頂いたり、散歩等を意識的に取り組み、外出支援を行っている。	日常の散歩や買い物に加え、図書館や名城公園、新聞で見て行ってみたい場所等、個別の外出希望は時間を作って支援している。身体の状態に関係なく全利用者が外出できるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは基本的には金銭の個人所持は控えていただいている。少額の所持で本人の安心につながると云う事であればご家族様と相談の上所持していただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切なお友達への手紙・電話のやり取りについては相手の方の了承を得て援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、ホールに利用者様が描いたり作成した作品や外出時等の写真を飾ったり、あまり華美にならずに落ち着いた雰囲気でも過ごして頂けるような配慮をしている。	壁には行事の写真や利用者の手作りの年間行事カレンダーや毎月のイベントポスターを飾り、アットホームな雰囲気作りをしている。リビングは光が良く差し明るく、掃除が行き届き清潔で自然と利用者が集い居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合った利用者様同士で会話をしたり、お好きな事をして過ごして頂いている。共用空間には一人になれる場所が無いので、それぞれの居室を利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具小物を持ち込む事で安心して落ち着いた生活が出来るを家族にも伝え、入所時に持ち込んでいただくことにより、混乱を減らし、居心地良い空間作りに努めている。	ベッド以外は利用者の使い慣れた物を持ち込み、写真や趣味の物を飾り、個々にくつろぎ、過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体能力に合わせ使いやすい工夫をし安全で自立した生活が可能な空間作りに努めている。		